

ジャロック導入レポート

(株)永田プロダクツ

(山形県酒田市)





環境面を考慮して電動ニブラを導入



ガソリンは地下に貯蔵

その外観からは解体工場とは思えない社屋 で地域からも愛される工場へ

山形県酒田市にある(株)永田プロダクツ（永田則男 代表取締役）は一昨年の10月に新社屋へと移転を果たした。その外観は解体工場には見えない作りとなっている。細部にもその趣向はあり、事務室より見える景色にも車が積まれている姿は見えなくなっているほどだ。

現在社員の数は50名となっている。若手が活躍する解体工場だ。月間の入庫台数は700～800台、一日35台ほどの生産、解体を行っている。プレス機も導入しており、運送面においても効率化を図っている。生産点数では一日平均50～60点で、総在庫は7,000点となっている。ニブラも毎日稼働してお

り、電動ということもあって音響、運用、排気などを見ても環境面で優れている。

酒田市はその昔大きな火災が二度あり、そのうち地震による火災も経験している稀有な都市である。その経験もあってか、防災に関しては非常に敏感な都市である。それ故、同社も移転の際は慎重に認可を得ていった経緯を持つ。特にガソリンの貯蔵装置に関しては道のりが長かったという。

そんな同社が移転前より使っている(株)ジャロック製のメザニンラックは同社の在庫の枠を広げながら、行政との折衝も果たした経緯を持っている。

ジャロックの対応力に導入を決定

「元々使っていたラックから新しいラック



プレス機も使って輸送コストを下げる



広く取られた生産スペース

へ変えようとしていた際に、特別口コミや営業に来てもらったわけではなく、インターネットで業者を探していた際にジャロックにたどり着きました。もちろん大がかりなラックとなると投資もかかります。

しかしそれ以上に弊社の場合は行政側との折衝が気がかりでした。有事の際にどうするかと言われれば、設置の出来るラックや倉庫内の設備にも限りが出てきてしまいますし、建築法でもやはり酒田大火の経験もあってか、許認可が下りるのに時間がかかるのは目に見えていました。

ところがジャロックにラックの見積もりを出した際に、『我々の方が行政に当たりますのでご心配なく』と心強い言葉をいただきました。実際に見積もりから行政からの認可までスムーズに話がまとまり、設置の方も10日間程度で済みました。ここまで素早く対応して頂けるのはジャロックだからこそではないかと思います」と村田竹男常務取締役。

ジャロックを見つけたのは昨今の流れに沿ってインターネットであったが、ただラックを買うだけに留まらず、設置まで安心して任せられる所に感銘を受けたという。実際にジャロックでは行政側との折衝を行っている関係で、様々な都道府県でのノウハウがあるため、折衝もスムーズかつ的確に行っている。

組み合わせ次第で自由に設定できるメザンラックはフローティングで中二階を可能にさせる

メザンラックの大きな特徴として建築物に中二階をつくれる所がある。これは三階建てだと建築法で規制がかかる部分をうまくカバーできる、ジャロックならではの商品力だ。永田プロダクツでは現在倉庫は二階建てとなっており、二階部分にメザンラックを



アイデア次第でラックも形を変える



建屋としては二階だが中二階がある



サビないボルト類、管理意識の高さも伺える



壁とのすき間が開いている

配置して中二階ができた結果、正味三階建ての倉庫として運用している。三階へ上がるのもフローティングされた階段で上がることが出来るので、スペースも無駄なく使うことが出来る。

「現在倉庫に人員として5名携わっており、梱包と検品などを担当しています。一か月に二回ほど整理整頓の励行と気づき・発見を話し合うことで、生産や在庫保管の効率化を図っております。現実的な話、ただラックを使うのではなく、うまく活用するために方法を考えなくてははいけません。

最近では軽自動車のドアも大きくなってきましたので、少し背の高いラックを作りたいとなった時に、このラックならば高さを調節できるので難なく運用出来ます。

重量物であったとしても作りがしっかりしていますので、8年経った今でもヤレなどは無く、しっかりしています。柔軟な発想の社員達の意見を忠実に再現できる部分もジャロック製だからと言ってもいいかもしれません」と菅原義久生産技術主任。現場の使いやすい、こうしたいをカバーできるメザニンラックは社員からの評価も高い。



中二階への階段はキャスターがついている



事務所にはパーツの展示もありオシャレ

庫内を効率よく運用させるジャロックの製品が事業の枠を広げる

「弊社ではまだ運用していませんが、耐熱塗料のガイナ、遮熱フィルムなど夏対策の製品も豊富に取り揃えているのがジャロックの魅力だと言えます。特に夏場ですと倉庫内の気温は40℃を超えることも多々あります。

サンプルで見させてもらった遮熱フィルムなどはガラスが多く使っている弊社のような社屋にはぴったりだと思います。熱を実際に全く感じないフィルムでした。こういった倉庫内のかゆい所に手が届くことで生産力が上がれば、より利益に繋がります。ただのラック、ただのフィルム以上の効果があると我々も見ています」と村田常務。

夏場における倉庫や現場での熱対策は社員の健康管理に必須である。特に熱がこもりやすい倉庫などではスポットクーラーだけではとてもではないがまかないきれない。ネガティブな部分を改善させることで生産力を高める、これこそがジャロック製品が支持される魅力なのである。